

第五主日礼拝

午前 10:30-11:30
(YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 ヨハネの福音書 1章14節 (新約 175)

賛 美 御前にひれ伏す (インマヌエル 503)

交 読 詩篇 135篇 1-21節 (旧約 1076)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 サムエル記 第二 9章1-13節 (旧約 553)

牧者公祷

説 教 『あなたに神の恵みを』 松井 元始 牧師

応答のとき

賛 美 いかなれば (インマヌエル 525)

感謝祈祷

頌 栄 父・御子・御霊の (インマヌエル 7)

祝 祷

後奏・黙祷

* * *

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉	〈奏楽〉	〈受付〉	〈聖書朗読〉	〈感謝祈祷〉
松井師	牧子師		司会者	

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けしています。

週報は、メール・LINE 連絡網でもお届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: immanuelojchurch@gmail.com

郵便振込: 記号 00180-8 番号 11785

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『あなたに神の恵みを』 (サムエル記第二 9章1-13節) 2023.12.31.

〈はじめに〉 1年の締め括りの日です。様々な出来事と思いが去来する中には、しっくり納得いくことばかりではなく、「なぜ」「どうして」ということも多々あります。それは心配・不安ばかりとは限りません。私たちが思い描くよりも、遙かに超えたこともあり得ます。

I ダビデとメフィボシェテ

①イスラエル王国とダビデ

イスラエル王国初代の王サウルの息子ヨナタンとダビデは無二の親友で(Iサム 18:1-4)、娘ミカルの婿です。サウルは台頭するダビデを恐れて殺そうとしますが、サウルとヨナタンは隣国ペリシテとの戦いで戦死し、やがて王国はダビデを王と迎えます。

②王家の末裔・メフィボシェテ

ヨナタン戦死の報を受けて逃げる際、乳母が抱えていた5歳のメフィボシェテを落として以来、両足が不自由となります(IIサム 4:4)。サウル王家とダビデとの王権争いの中、彼は、ヨルダン川東岸のロ・デバルのマキルの許に身を置き、人知れず生活しています。

③まだだれかいらないか(1, 3)

王国の安定のために、前王朝を根絶やしにするのが常です。ダビデ王の言葉(1)は周囲に肅清を予感させます。王の前に引き出されるサウル家のしもべツィバも(2)、メフィボシェテも(6)「あなた様のしもべです」と名乗るのは、ダビデへの恐れと恭順を示すためです。

II 恵みを施したい

①ヨナタンのゆえに(1,7)

ダビデがサウル家の生き残りを探したのは、親友ヨナタンとの誓い(Iサム 20:15)を思い起こし、それを果たすためです。ダビデは主の御名によって誓ったこと(Iサム 20:42)に真実をもって尽くしたいと願い(1)、「神の恵みを施したい」(3)と神を引き合いに出したのです。

②死んだ犬のような私(8)

メフィボシェテは敵であった前王朝の末裔、しかも不自由な身です。対抗するつもりなど皆無だから隠遁していたのですが、王からの召還に覚悟して出かけます。彼が自分を「死んだ犬のような私」(8)と評した言葉に、どんな思いが込められていたのでしょうか。

③王の食卓で

彼の予想に反し、ダビデ王は彼に厚遇を与え、敵意ではなく好意と愛顧を示します。祖父サウルの所領を彼に返し、ツィバー一家に彼を支え労するよう命じ、メフィボシェテはエルサレムに住み、王の息子とともに王の食卓に待るようになります。

III 神の恵みにあずかる

①敵であった者(ロマ 5:10)、死んだ者に(エペソ 2:4-5)

私たちがかつては、神を認めず自分勝手に生き、神に敵対して生きていました。それは、神の御前には罪と背きの中に死んでいたのです(ロマ 5:10)。しかし、あわれみと愛に富む神は、イエス・キリストの十字架のゆえに、恵みによって救われたのです(エペソ 2:4-5)。

②神から招かれて(マタイ 9:13、ヨハネ 10:3、黙示 3:20)

ダビデがメフィボシェテを召したから、彼は王の前に進み出られました。神はイエスを罪人を招くためにこの世に遣わされ(マタイ 9:13)、一人ひとりをその名を呼んで連れ出そうとされています(ヨハネ 10:3)。イエスの呼び掛けは今も続いています(黙示 3:20)。

③神の家族の一員へと(ヨハネ 1:12)

王の食卓に連なるのは、王家の一員・王子と同列の扱いです。神の恵みの招きを信じ受け入れた私たちも神の子となる特権が与えられ、神の家族に加えられます(ヨハネ 1:12)。食卓は黙食ではなく、養いとともに交わり・語らいがあります。それを味わってますか。

〈おわりに〉 「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた」(ヨハネ 1:16)のです。人間側からすれば驚きと不思議でしかありませんが、神が予め計画され、実行された御計画に過ぎません。これからも神の恵みを信頼し期待しましょう。(H.M.)